競 技 規 則 の 要 点

1. 競技場について

① 塁間は、１６ｍで実施する。
② コーチャーズサークルは、設けない。（コーチャーは立てない）

2. 用具について

① 試合に使用する用具（ボール・バット・バッティングティー）は主催者で用意する。（グラブは、各自で用意。　金属スパイクは禁止。）
② ボールは、ケンコーティーボール１１インチゴム製を使用する。
③ バットは、ＳＧマーク（製品安全協会認定）製品を使用する。サイズはＳ・Ｍ（小学生用）の二種類とする。

3. チーム編成とプレイヤー

① プレイヤーは、１０人とする。エキストラヒッター(打つだけの選手)は採用しない。
② 基本的守備位置については、競技規則等で確認しておく。
③ メンバー表の交換は、特に行わない。
④ 背番号を必ず着用し、メンバーが確認できるようにする。

4. 試合について

① トーナメント方式
試合は、一回戦のみ３イニング（３０分）とする。ただし、３０分を過ぎた時点で、新しいイニングに入らない。二回戦以降は２イニングで実施する。
勝敗が明確になったとき、試合途中で攻撃を省略することもある。
試合が終了した時点で同点の場合は、タイブレーカールール（満塁：走者８、９、１０番打者、打者３人：１～３番打者）を行う。
※本ルールで同点の時は、各チーム４人（４～７番打者）で抽選を行い、勝敗を決める。但し、決勝戦・３位決定戦は除く。

② リーグ戦方式
勝ち点制を採用する。(勝ち：２点、引き分け：１点　負け：０点)
勝ち点が並んだときは、代表１名による抽選を実施し、順位を決定する。

② 決勝トーナメントにワイルドカードを採用する。予選リーグ・トーナメント（7ブロック）２位の１チームが、抽選により進出できる。
③ 内野の守備位置は、打者がボールを打つまで、内野ゾーンに入ることができない。

内野の守備は、ダイヤモンドより後方に位置する。安全確保（怪我防止）のため。打撃が行われたと同時に移動可。

④　全員（10 名）攻撃制で実施。

○両チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者が攻撃を完了した時点で攻守を交代する。 ○残塁の走者は次の回に受け継ぐことができる。（最終回を除く。） ○１回・２回の最終バッターのとき、フライを打った時やフォースプレーが行われた場合、塁上のランナーはホームインできない。 ○最終回最終バッターのとき、通常のアウトのほか、ボールを保持した守備者が本塁ベースを踏んだ瞬間に試合（イニング）終了とする。

⑤次の試合のチームは、前の試合が終了するまでに移動や準備を完了しておく。
⑥ 試合を円滑に進めるため、フィールディングとボール回しは禁止する。

5. 打者（バッター）についての主なルール

①　「プレイ」の宣告後、１０秒以上経過したとき、ストライク。
②　打つときに、軸足を２歩以上動いたとき、ストライク。
③　ボールに触れずにバッティングティーを打ったとき、ストライク。
④　バントは禁止。バントやプッシュバントと球審が判断したとき、ストライク。
　※ 故意に、スウィングを遅くしたときもストライク。
⑤　２ストライク後、打球がファールボールとなったとき、アウト。
⑥　バットを放り投げは禁止する。

6. 走者（ランナー）についての主なルール

①　離塁は打者が打撃した後とし、違反した場合はアウトになる。
②　盗塁は禁止。（タッチアップは認められる。）
③　スライディングは禁止、すべての塁で駆け抜けを認める。ただし、進塁の意思があると判断された場合はその限りではない。
④　インフィールドフライはなし。

7. ボールデッドについて規定

①　プレイが一段落した段階（守備側の内野手がボールを保持し、攻撃側の走者が進塁の意思を見せずに止まったとき）で、ボールデッドの判断をする。
②　ボールがファウルラインの外に出た時は基本的にはフリー。ただし、状況により審判が判断することもある。

※　ルールについては、「公認ティーボール規則」に準じて実施。
ただし、ティーボールの理念から、状況に応じて特別な配慮をすることもあります。
その場合は、審判の指示に従ってください。